

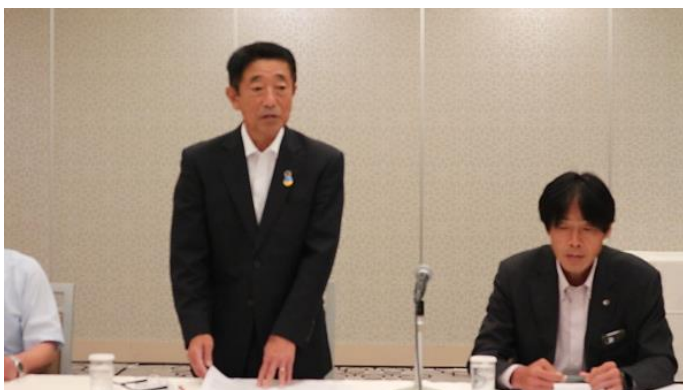
JR九州労組議員団会議「第31回定期総会」 労働組合と政治との 関わりの見える化に取り組もう

JR九州労組議員団会議は、7月4日、JR九州ステーションホテル小倉において第31回定期総会を開催した。

冒頭、幹事会を代表して挨拶に立った松尾哲也団長（大牟田市議会議員）は、第20回統一地方選挙において組織内候補の4名が全員当選したことに関し、この間のJR九州労組の協力に対する感謝を述べた。また、2023年9月に選挙を控える井上修会計監査（苅田町議会議員）への協力を要請した。さらに、7月に入ってから豪雨で被災された方々へのお見舞いを述べたうえで、久大線をはじめ複数の路線が被災していることに対し、災害で被災した鉄道復旧に関する公費負担等に関してもそれぞれの地域から自分たち議員が声を挙げていくことの重要性を述べた。

その後、事務局から2022年度活動経過報告・決算報告、山部良二会計監査（大津町議会議員）から会計監査報告を行い、一括して承認された。続いて、事務局から2023年度活動方針案として「苅田町議会議員選挙の取り組み」「JR九州労組との連携強化」「JR九州労組の取り組みへの積極的な参画」「交通事情調査の実施」「財政の確立」等について提案された。中でも議員団会議の所属議員の引退や新たな組織内議員の発掘が進まないことから、苅田町議会議員選挙における井上修氏の必勝は不可欠であり、JR九州労組と連携して精一杯取り組んでいくという方針が示された。来年度の活動方針や各参加者からの活動報告等で活発な意見交換が行われた後、2023年度活動方針案・予算案ともに満場一致で採択された。

幹事会体制については、松尾団長をはじめ全幹事・会計監査が再選し、次年度はJR九州労組議員団会議の再認知はもとより、各議会の定例会においてJR連合の政策提言やJR九州労組の要望事項に基づく質問を行うことで「労働組合と政治との関わりの見える化」に取り組もうという決意を固め合い閉会した。



代表して挨拶する松尾哲也団長



活動報告や方針に対し活発な意見交換が行われた